

前房内培養ヒト角膜内皮細胞注入による角膜内皮機能不全の治療法の確立

京都府立医科大学 感覚器未来医療学講座

角膜内皮細胞は角膜の透明性維持に必須の細胞であり、疾病や外傷により障害されると角膜が混濁し、角膜内皮機能不全による重傷視力障害をきたします。角膜移植患者の60%以上は角膜内皮機能不全であります。本疾患に対する予後は不良で、新規治療法の開発が望まれてきました。生体外で培養した組織幹細胞を豊富に含む角膜内皮細胞移植の開発を目指しています。

(文科省 再生医療の実現化ハイウェイ 2011年採択課題)

研究内容

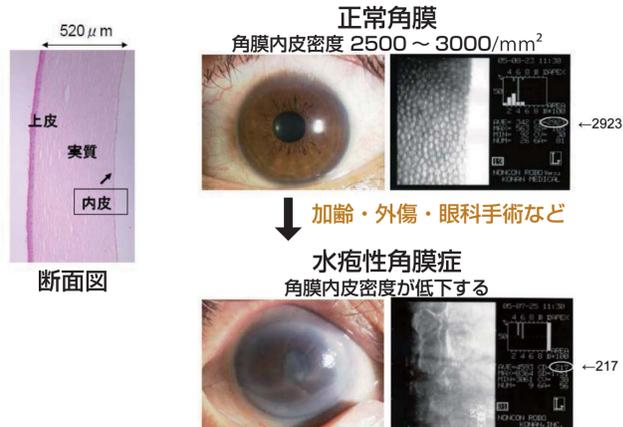
- 移植医療適用可能なヒト角膜内皮細胞培養法の確立
- ヒト角膜内皮細胞の特性解析
- 培養ヒト角膜内皮細胞移植による角膜内皮再生医療の実現化



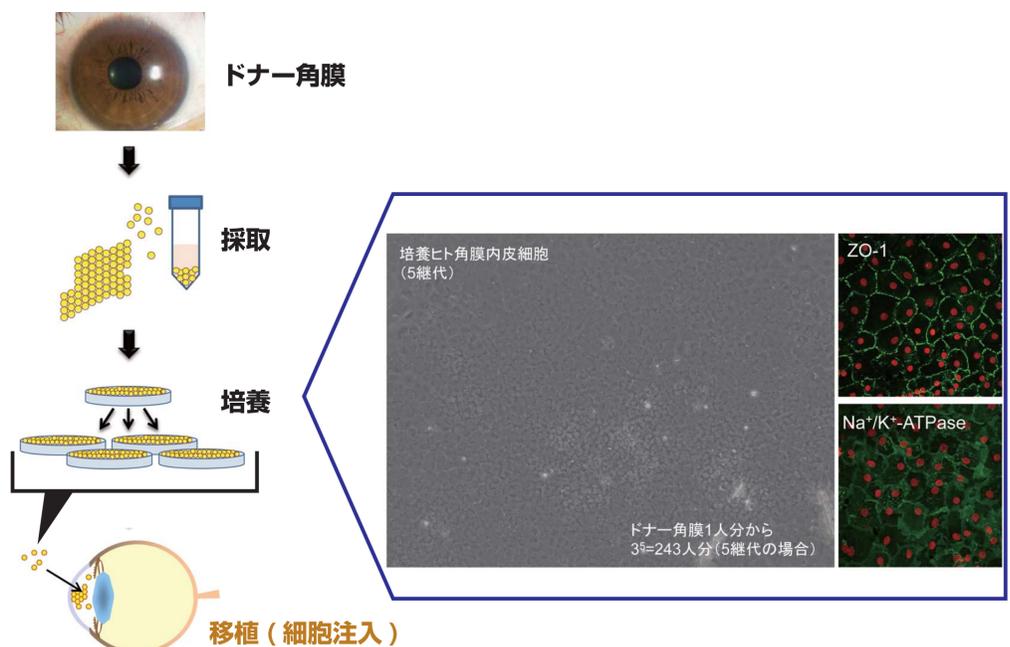
角膜内皮細胞と水疱性角膜症

◆ 角膜内皮細胞の特徴

- ・角膜の透明性維持に必須
- ・生体内で増殖しない



培養ヒト角膜内皮細胞



研究室概要

代表 | 木下 茂
所在地 | 京都市上京区河原町通広小路上る梶井町465
電話番号 | 075-741-8726 FAX 番号 | 075-741-8729
URL | <http://www.opth.kpu-m.ac.jp/>